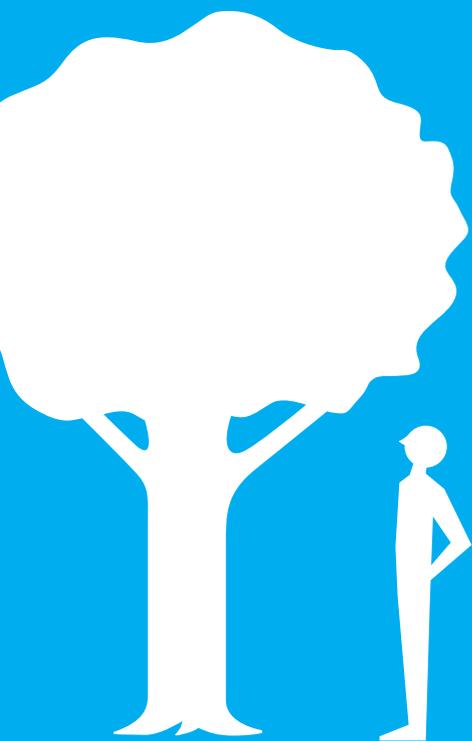


明日を拓くひとの発想ペーパー

生活者

生活者発想人
になろう②

満足のこれからを考えよう

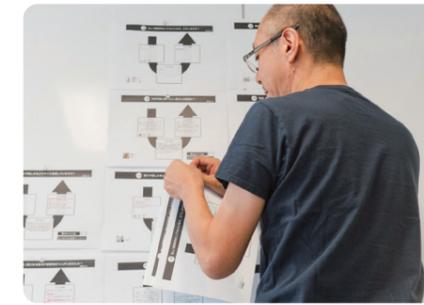
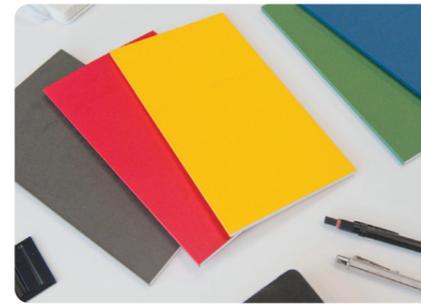


立場や任務を超え、ひとりの生活者として発想しよう

毎日の暮らしを、アイデアの宝庫として見つめ直そう

楽しい思考を分かち合い、豊かな未来を発明しよう

生活者発想人倶楽部



「ひとの気持ちの矢印」を見つける

前号の発想ペーパー【生活者】では、博報堂生活総研が運営する

【生活者発想人倶楽部】の概要とメンバーの発想例をご紹介します。

この運動体には様々な分野のプロフェッショナルが集い、職業や肩書を超え、ひとりの生活者として明日への想いを発信しはじめています。

共創の場であるwebサイトは、メンバーが自分の日常をアイデアの源として見つめ直し、次の豊かさへ向かうためのヒントを蓄積し続けている「発想の貯水池」です。

このたび事務局では、投稿された着想群を解体・再構成し、これからの欲求や関心の方向性を探りだしてみました。

今号では、私たちの毎日に潜む「ひとの気持ちの矢印」をいくつかご紹介します。

これらの着想に興味を持っていただけるようでしたら、実際にwebサイトへおいでください。

webサイトには、ここで紹介しきれなかった数多くの気づきや発想が貯められています。

メンバーの発想は、誰もが使える社会資源として公開しています。

ぜひ、みなさまのお仕事や、暮らしの未来を考えるヒントとしてご活用ください。

■前号(Vol.13 生活者発想人になろう①)のデジタル版入手先や、倶楽部webサイトのアドレスは、最終ページをご参照ください。

やけに本物志向を打ち出す「立ち食い蕎麦屋」が増えている。サービス過剰な店舗の接客やタクシーも“そこまでいらぬ”。気軽なものは、気軽に消費したい。「ほっといて、勝手にやるから」業態の開発を。(Q17 嶋本達嗣)

・商店街の生鮮食品店の量的おまけ、サービス。ありがたいが、余らせてしまいかえってもったいない。
・ファストフード店のセットメニュー。安くてついつい買ってしまいが、食べきれない。(Q07 高橋哲久)

【寸止めの美学を】
■ホントにうまいものは、味がし過ぎない
■ホントにお洒落な人は、お洒落過ぎない
■モノづくりのうまい人は、作り込み過ぎない(Q06 中村隆紀)

散々言われていますが、過剰包装な通信販売の箱。時々、何を頼んだんだっけ？と思う大きさのダンボールに入っていてびっくりします。(Q07 斎藤竜太)

「年相応に太る」ということがあっても良いのではないか。ダイエットダイエットと言いつつ過ぎだと思ふ。健康的に太るための食事療法。(Q23 星出祐輔)

ちょうどいい量に作れないベランダ野菜。家庭の生産過剰が始まっている。自家製野菜の交換／直販所を自治体や流通が請け負えないか。「おもてなし」の先に、「おすそわけ」。(Q07 中村隆紀)

病院の自動精算機。精算が済むと機械から「お大事にいいい」と流れる。とても嫌な感じがする。(Q17 嶋本達嗣)

前進と向上心に疲れたのです。向上心デトックス運動・道場など、生きていることをそのまま受け入れるというスタイルが生まれる。(Q28 山本泰士)

社会性が大事、健康こそ正義、安全第一、そういう【善】に皆、疲れてはいないか。ひと時、【善】を休みたい、そんな「善休欲求」を感じる。(Q13 嶋本達嗣)

うなぎ、売り過ぎ。これじゃ絶滅して当たり前。「生活者が望んでます」を絶対善として、普段は無くて困らない物の大量消費と無駄な廃棄が進む。勇気を持って競争から離脱することが、顧客の支持を強固にすることもあるはず。(Q07 中村隆紀)

「こだわらない」ことを謳った商品やサービスの出現。(Q23 佐藤亮直)

今の商品やサービスはユーザーの欲求を超えるほどに完成しすぎてる。(Q19 松井一哲)

適正欲へ オーバースペック オーバーサービスは いらぬ

不足するより余るに越したことはない。機械の機能は使わなくてもあったほうが安心。神経質なほどのこだわりのあるモノや店には味がある。・・・今どきそんな価値観は無駄そのもの。「足るを知る」を楽しみたいと多くの人が考えはじめています。

経年変化を楽しもう！

いま、緑青という意味の patina という言葉が、古びるものの価値の大切さを意味する言葉として注目されています。年をとった人間の価値。使い込まれたモノの価値。そしてモノと人の長きにわたる愛着醸成。人と人との関係熟成が評価されています。

「新しくする」から「繋いでいく」。人が使い、手を加え、そうした履歴がモノの価値になっていくような、本格的に成熟した人とモノとの関係を支えるシステムやサービスの開発。(Q19 長谷川宏)

昔は、図書館の本の裏表紙内側に貸出スタンプがおしてあり、「こんなにたくさんの人が読んだんだ」という感慨があって古い本でも価値を感じた。(Q01 宮川尚子)

エイジングの美しさへ。年相応の経験と外見で生きることの魅力化、枯れる学習・・・もっとマジメに年を取ろう。(Q08 中村隆紀)

若く見られるのも、それなりに傷つく。(Q23 山崎友彰)

日本は年齢思考社会。10歳刻みの年代切りに対して、アラサー、アラフォーというような四捨五入切り概念が入ってきた。これって今後、どうクロスオーバーしていくんだろう？(Q25 磯部光毅)

ロックは高齢者の音楽となった。演歌のポジションを奪う日も近い。(Q04 佐藤亮直)

自分と同じ年齢を持つ商品への愛着。(Q20 長谷川宏)

お遍路さん。1000年以上前のツーリズム的な仕掛けが、四国の地域経済にも貢献している。(Q11 須田泰成)

定番。常に新しいもの、ではなく昔からある安定したいいもので、自分が気に入っているものをずっと、という意識が特に若い人を中心にできてきているような気がします。新しいものを追いかけているのはバブル世代前後だけなのかもしれないと思ったり。(Q04 森永真弓)

地道に続ければ進歩成長するという実感、その喜び。大人になると、なかなかそういう実感が得にくいもの。仕事の評価とかね。(Q05 平塚元明)

デジカメ／スマホが普及し、今の子どもは人生を撮られ続けている。人生を記録し続ける時代。(Q22 菅順史)

SNSなどを通じて、「今」の友達だけでなく、「昔」の友達ともつながりやすい。(Q11 小林舞花)

日本には年を経ていく方向での、誉め言葉がない。成熟することへの誉め言葉が。(Q23 長谷川宏)

自分の街を 見まわし直そう！

「行くグローバル」⇒「来るグローバル」。
グローバルイゼーションと言うと、日本を飛び出し世界へ向かうことを考えがちだが、いまや生活の足元が急速にグローバル化している。

- これからは
- ・多言語表記が、日用品の細部に浸透
 - ・近所や地域のお祭りが多国籍化
 - ・小中学校がインターナショナル・スクール化
 - ・民族シェアハウス、民族スーパーなど
- エスノマーケティングが加速する。(Q01 中村隆紀)

居酒屋、スナック、カラオケ、日本酒、焼酎、サワー、おにぎり、お稲荷さん、立ち食い蕎麦、牛丼、上からの「おもてなし」に比べて庶民的な文化の外国人向け解説はまだまだ少ない。(Q01 阿部一将)

立ち飲みは、アフター5の新たなコミュニティへの欲求。(Q01 内田忍)

「デザイン事務所だけどカフェ」「本屋だけどビールも飲める」・・・いろんな人が訪れるような仕掛け、人と人が交わることをすごく意識している。(Q01 角屋ゆず)

コンビニはなんでも売る。そのうち、ビアガーデンのあるコンビニ、10分間理髪のあるコンビニも当たり前になる。(Q01 大田雅和)

町内会の回覧板。極端なことを言えば、隣近所の生存確認になってるのかな。それとも、災害に備えて必要？ 災害のためだけの町内会なのかな。回覧板でしかももらえないサービスチケットとか地元のお店がやってくれたらもっと見ると思う。(Q21 阿部一将)

町は、高齢化経済の波にのまれている。
●健康保険治療が多い内科は増えにくいけど、健康保険のきかない入れ歯治療が多い歯科はまだ増える。
●宅配寿司店は、一度契約すれば販売数が動きにくく、メニューも店側で決められる高齢者向け宅配弁当へ。(Q01 大田雅和)

赤坂の氷川神社では毎朝ラジオ体操をやっていて、近所の住民が集まっているらしい。いまどき毎朝ラジオ体操なんてやっているとこなんてもう無いよね、せいぜい小学生の夏休みぐらい・・・?とっていたらすぐく身近にあった。(Q05 森永真弓)

空家が増えています。やはり少子化なんでしょうか？空家を公共の施設として使うところに可能性があるかもですね。(Q01 須田泰成)

モバイル端末の普及で、四六時中、街中でもあらゆる作業や情報チェックをすることが可能になった。ベンチやカフェほどの休憩場所ではなく、少しカバンを置いて、モバイル端末を確認できる程度の、気軽に立ち止まれる「可作業スポット」へのニーズが高まっている。(Q12 菅順史)

多国籍化するご近所。超高齢化する平日の商店街。スマホが生みだす新たな歩く習慣。気がつけば、若者の酒場コミュニティが復活。自分の住む街を改めて眺め直すと、そこは社会課題の縮図です。

ネット購入が日常化している現在、商品の分量や手応えを感じることなくワンクリックで商品を購入できてしまうので、「生活の適量をきちんと把握したい」「数値化・見える化して手応えを得たい」という欲求が生まれているのではないか。(Q04 星出祐輔)

喜怒哀楽、絆の強さ、痛みなど、本来、数値化できないものを数値化するしくみが生まれる。その結果、新しい単位が生まれ、それらを計測するツールが生まれる。(Q25 佐藤圭以子)

身体幅感覚なるものも、まちをゆく一般市民には必要なのかも。まちをゆくとき、自分の身体の大きさを認知することは必須。(Q17 諏訪正樹)

カーシェアの車で運転すると、アクセルやブレーキのデータが記録され、点数が付けられていた。日常の行動が点数化されると、生活がゲーム感覚になり、行動が変わる。(Q10 菅順史)

調査などで、深層心理が測れるようになる。隠したい本音の調査などが増える。(Q18 小林舞花)

物事を数字で把握したい気持ちが強まっている。数字に頼ったコミュニケーションに「安心」「落ち着き」を感じるメンタリティの人が増えている。(Q25 佐藤圭以子)

スーパーマーケットやIKEAなどの大型店舗で、自分で会計するレジコーナーの利用者が増えてきた。レジに並ぶのが面倒、はやく会計を済ませたいからではなく、買物ごっこのようにバーコードをピッ!とやるのが楽しいから。(Q01 長谷川宏)

健康診断の数値より、もっと実感の持てる指標で健康状態を把握したい。(Q02 菅順史)

毎日することの中に、さりげなく「測定」を組み込めないでしょうか。(Q13 中村隆紀)

「○○%変化」判定アプリ。数年前の写真と今の顔の写真をモデリングしてくれてどれぐらいの変化があったかを数値化してくれるソフト。(Q23 松井一哲)

知りたい＝測りたい

情報化・デジタル化が進み、モノの重さや手触りなど、身体の実感があいまいになってきています。なんでも数値化し、それに従って行動することが、新しい安心・納得を生み出しはじめています。

情報接触を断つと考えが整理されやすいです。(Q30 田仲薫)

情報量ばかりが増え、考えはじめたら止まらない時代。時に立ち止まり、陽気に思考停止したい。(Q29 山本泰士)

なんでも事前に調べられることで、失敗しない便利さと同時に、失敗してはいけないプレッシャーを生み出している。(Q09 菅順史)

ネットやアプリの乗換案内を見て、その時間通りに乗り換えて移動している。たまたま、何も見ずに来た電車に乗って移動したら、気楽だった。(Q03 小原美穂)

地方にきたから有名な○○で食べようと検索したら、すでに東京にも出店していて、地方にきた高揚感が薄れる。(Q03 松井一哲)

今の子どもは、親にすぐ「ネットで調べて」と言う。父母の知識威厳が低下している。子どもの質問にイメージネーティブに応えるための親向けの塾が欲しい。(Q22 菅順史)

人間と向きあい過ぎて自分の気づいた。朝起きてLINE・メールチェック。昼間はメールのやり取りに打ち合わせの連続。夜はFB・ブログチェック。他者に向きあい過ぎていると、自分の受容体が、他者が発する情報で埋め尽くされ不感症になってしまう。自分を初期化してくれる場が欲しい。(Q19 星出祐輔)

飛行機に乗っていないのに、機内モードを多用する若者。常時接続に煩わしさを感じているのだ。(Q05 酒井崇匡)

ネットサーフィン、携帯(スマホ)いじりで、休憩のつもりが、実は目や脳を酷使している。(Q09 井上あさこ)

出勤してPCを開けメールを見た瞬間から、頭が作業処理モードになってしまう。これは「発想」ではない。(Q30 中村隆紀)

最近の隙間時間はスマホに占領され過ぎだ! 情報が絶えず注入され、「ボンヤリ」を奪われている。(Q09 酒井崇匡)

調べ過ぎを反省しよう!

ネット情報があふれすぎて、その情報そのままに従って行動するのが一番楽だと思ってしまう時代。一方で、その情報におぼれ、自分の思考と発想する時間を失いつつあることも自覚している私たち。知ってから行動するより、知らないまま行動することを取り戻そう。

「暮らしの知恵」を わかり直そう!

私たちは、人間本来の暮らしの知恵を忘れていることに気づきはじめています。自然に目を向ける。年長者の声に耳を傾ける。そうして、自分自身の身の周りには何があって、何が無くなるようとしているのかという日頃の生活そのものの有りようを確かめてみましょう。

今の子どもは、虫の種類／名前を知らない。知ってもカブトムシとクワガタぐらい。タガメやカマキリの卵なんて見たこともないのだろう。(Q22 佐藤夏生)

巷のカッコいい酒飲みを探そうみたいなのでしょうか。こんなカッコいい酒飲みを見たって、みんなで語ったり、書き込みあったり。お店の雰囲気や料理、お酒をレポートすることは多いですが。(Q23 阿部一将)

腕利きおばあちゃんを「家政教師」に。身近な高齢者は、先生。(Q29 中村隆紀)

年に一度の「家の持ち物大検査」。点検、修復、復活させるのが楽しい。(Q19 長谷川宏)

日本人の意外と知らない日本文化。「日本文化検定」の実施。(Q01 高橋哲久)

姉が花嫁修業で有名な先生の料理教室に通った(高額を払って)。「母⇒娘」の家事伝承が外注化している。【娘に花嫁修業をするための母親修業】などが必要だ。(Q05 菅順史)

「食育」の先に「里育」。学校が教えにくいならば、コミュニティが地方の自治体と結びついて、「郷里」を教える林間学校を事業化するとか・・・。(Q22 中村隆紀)

伝統行事のリノベーションが起こってる! 【ハロウィン】本来:子供が仮装してお菓子を貰える祭り。新価値:大人が年に一度、公然とコスプレできる祭り。【みたま祭り】本来:英霊を慰める祭り。新価値:若者が小中高各時代の友達と集える祭り。(Q04 酒井崇匡)

人格やスキルが完成したように見える50代、60代に向け「自分を壊そう」ムーブメントが始まる。禁・得意技の仕事教室や社交技術を剥奪して一からやり直す人間学校など、能力・資質の「断捨離」欲求に応える場が増えていくのではないか。(Q28 嶋本達嗣)

日本は、東アジアから南アジア化。大豆文化からスパイス文化へ。(Q01 中村隆紀)

「夢を与えてくれるもの」より「現実と向き合う力をくれるもの」がもたらされている?(Q04 市川友美)

生活を見つめ直すための質問集

- Q 01：最近、あなたの近所で増えているものは？
- Q 02：最近、心に残った「ひとこと」は？
- Q 03：都会は不便だなあ・・・と感じることは？
- Q 04：このごろ「復活してきているな」と思うものは？
- Q 05：あなたのまわりに、気になる趣味や習慣を持つ人がいませんか？
- Q 06：この5年間で、あなたの家の「食」はどう変わりましたか？
- Q 07：「無くてもいいな」「ちょっと無駄かな」と思うものは？
- Q 08：いま恋をするとしたら、どんな人を求めますか？
- Q 09：本当は減らしたいのに、増えている時間ありませんか？
- Q 10：最近、あなたの先入観が裏切られたことは？
- Q 11：いま、どんな旅やレジャーが気になりますか？
- Q 12：意外な人が使っているor意外な使い方をしているモノ・コトは？
- Q 13：時代の流れの中で、「やりづらいなあ」と思うことは？
- Q 14：暮らしの中で減りはじめた「音」を探してみましょう
- Q 15：「相反するけど、双方満たしたい」欲求がありますか？
- Q 16：あなたは、情報をどうまとめていますか？
- Q 17：「心を込めてほしくない」サービスは？
- Q 18：ひとの五感・五体で、近頃どこが気になりますか？
- Q 19：面倒・損・今さら・・・でも、好きなことは何ですか？
- Q 20：最近、もらってうれしかったものは？
- Q 21：「役に立つけど、もう少し面白くならないかな」と思うことは？
- Q 22：「今どきの子どもは違うなあ・・・」と思うことは？
- Q 23：言われたくない褒め言葉は？
- Q 24：最近、幸せを感じたニュースは？
- Q 25：このごろ、本屋で増えていると思う本のタイトルは？
- Q 26：怒りや哀しみをどうやって表現していますか？
- Q 27：最近、知らなくて恥ずかしいと思ったことがありますか？
- Q 28：もし1週間何をしてもいいなら、どうしますか？
- Q 29：100年後に残したい、暮らしの風景は？
- Q 30：あなたのアイデアは、いつ・どこで生まれやすいですか？

生活者発想人倶楽部のメンバーが、日々の暮らしを見つめ直す際に「思考の杖」としている質問集を、ここに掲載します。

私たちは、普段の何げない行動や自分の気持ちに[問い]を立てることで、自身の着眼点を鮮明にして、

これからの時代に求められるモノやサービス、お店や街づくりのアイデアを発案、交換しています。

ぜひ、みなさまも、ここにある[問い]と向き合ってみてください。

生活者発想人——それは、生活の足元から、未来を発明する手掛かりを生み出す人です。

ひとりひとりのアイデアを、みんなの未来資源に。私たちの試みをご体験、ご活用いただけると幸いです。

倶楽部webサイト <http://hasso-jin.jp/general/>

* 発想ペーパー【生活者】前号 (Vol.13 生活者発想人になろう①) 及び一部のバックナンバーは、
下記「生活総研ONLINE」サイトよりご入手ください。

生活総研ONLINE <http://seikatsusoken.jp/paper/>

生活者
Vol.14

発行：株式会社 博報堂
企画編集&発行人：博報堂生活総合研究所／生活者発想NEXTフォース
電話：03(6441)6451
<http://seikatsusoken.jp/>